

令和元年度 第1回小樽市総合教育会議

開催日時 令和元年10月31日(木) 16:00~17:20	開催場所 小樽市役所別館4階第3委員会室
-----------------------------------	-------------------------

出席者

(構成員)	小樽市	市長	迫 俊 哉
	小樽市教育委員会	教育長 委員 委員 委員 委員	林 秀 樹 笹 谷 純 代 小 澤 倭 文 夫 荒 田 純 司 常 見 幸 司
(事務局等)	小樽市		小樽市教育委員会
	副市長 総務部長 総務部企画政策室長 福祉部子育て支援室長 財政部公共施設担当主幹 産業港湾部主幹 企画政策室主幹 企画政策室主査	小山 秀昭 日 榮 聡 林 昭雄 相庭 万友美 中津川 晃 中崎 岳史 布 聡哉 栗山 敬司	教育部長 森 貴仁 教育部次長 須藤 慶子 学校教育支援室長 中島 正人 学校教育支援室主幹 大山 倫生 学校教育支援室主幹 谷口 剛 学校教育支援室主幹 吉田 健一 総合博物館主幹 大鐘 卓哉 教育総務課長 成田 和陽 教育総務課総務係長 安藤 英明

※傍聴者数 2名

- 協議・調整事項
- ①小樽市教育大綱について
 - ②公共施設再編計画について
 - ③教員の多忙化解消対策について
 - ④ふるさと教育について ~日本遺産との関係~
 - ⑤学校図書館について
 - ⑥その他
 - ・通学路の安全対策について(除排雪関連)
 - ・学習環境の改善について(トイレの臭気対策)

— 会議内容 —

総務部長	<p>それでは、皆様おそろいでございますので、ただ今から令和元年度第1回小樽市総合教育会議を開会いたします。まず、現在のところ、傍聴の方が2名おられますので、お知らせいたします。それでは、本日の会議を招集いたしました市長の迫より一言御挨拶申し上げます。</p> <p>市長、よろしく願いいたします。</p>
------	---

<p>市長</p>	<p>教育委員の皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今日は先ほど教育委員会が開催されたということですが、お疲れのところお集まりいただきました。</p> <p>思い起こしますと、この総合教育会議につきましては、5年前に教育委員会の制度が改められまして、私が教育部長をしているときに、小樽市として初めて、一回目の総合教育会議を開催させていただきました。そのときには教育大綱について、いろいろと皆様には御審議をいただいた記憶がありますが、この間、いろいろな教育に関わる問題が多様化しておりますし、複雑化もしております。こういった問題について教育委員の皆様としっかりと意見の交換をさせていただきながら、より良い、子供たちのための教育環境の整備に向けまして連携を深め、協力関係を築いていきたいと考えております。私の公約に関連する案件も含めまして意見交換をさせていただきたい項目をいくつか用意させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>総務部長</p>	<p>それでは早速ですが、小樽市総合教育会議の運営に関する要綱第3条の規定に基づきまして、以降の進行を市長にお願いしたいと思います。</p> <p>なお、全体の会議時間につきましては、1時間半程度を予定しておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、市長、よろしく願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>まず一番目の教育大綱について御審議いただきたいと思います。現在の教育大綱もそうなのですが、法律に基づきまして、教育大綱に代える計画があれば、それを大綱に充ててもいいということもございまして、5年前に総合教育会議の中でも、第6次総合計画の教育に関わる部分を大綱に代えるということで御判断を頂いたところなんですけれども、ちょうど今、私どもも第7次の総合計画を策定しておりまして、私が決裁したのが10月の21日ですので、その日に第7次総合計画の基本計画を決定しています。この後、議会において御報告させていただきますけれども、手続き上は決定しているということで、この教育大綱に総合計画の教育の部分を充てるということについて、まず御審議をいただきたいなと思っているところでございます。</p> <p>少し私の方から、今回の総合計画の基本計画におけます大綱部分にあたるどころについて私どもの考え方を御説明申し上げたいなと思っております。</p> <p>まず最初に学校教育の部分の現状と課題ですけれども、2段落目を御覧いただきたいと思います。ここには子供たちの学力の状況が全国水準に至っていないということ、それから家庭での学習時間が短い、それからスマートフォン等を利用する時間が長いという生活習慣を改善する。このことが課題となることが書かれています。そして次の、またで始まる段落ですけれども、特別支援学級それから通級により指導を受けている生徒数が増加傾向にあるとい</p>

<p>市長</p>	<p>うことも課題に掲げさせていただいております。</p> <p>それから幾つか飛びまして、豊かな心の育成についてはという段落を御覧いただきたいと思いますが、ここの後段の部分につきましては、ふるさと小樽への誇りと愛着、思いやり、こういったことなどを育むため、ふるさと教育、読書活動等を一層充実する必要があります、といったことを掲げさせていただいております。このふるさと教育につきましては、後ほど私のほうからも考えをお示しさせていただきたいと思っておりますけれども、ふるさと教育の必要性をここで掲げさせていただいているところであります。</p> <p>次のページを御覧いただきたいと思いますが、ここでは2段落目を御覧いただきたいと思いますが、家庭・地域との連携の推進というところがございますけれども、学校が抱える課題が複雑化・困難化していることから、コミュニティ・スクールの導入など、学校と地域がパートナーとして連携・協働した組織的・継続的な取組が求められています。次の段落を御覧いただきたいと思いますが、教育環境の向上を図るため、小・中学校の適正な配置や、とりわけ大事なのは、この施設整備の充実に努めること、という記載がありますけれども、こういったことを課題として掲げさせていただいております、最後の段落、先生方の児童生徒に向き合う時間を確保する必要がある、こういったことを課題に掲げさせていただいております、以下に施策の内容について記載してまいります。</p> <p>施策の内容の1番目、未来を創る力の育成というところがございますが、学習習慣の確立による確かな学力の育成、それから特別支援教育の充実、それからキャリア教育の充実などをここで掲げさせていただいております。</p> <p>それから2番目の豊かな心の育成でございますけれども、教材「おたるの自然」これから配布されるというふうに伺っておりますけれども、副読本の「小樽の歴史」、こういったものを活用した学習ですとか、既に実施されております、屋形船における講話などを通して、ふるさと教育の充実に努めていく。このことについて推進していきたいなというふうに思っているところでございます。</p> <p>1枚おめくりをいただきまして、豊かな体の育成というところがございますけれども、子供たちの運動習慣の定着、食育の推進、基本的な生活習慣の指導を推進させていただきたいというふうに思っているところでございます。</p> <p>それから4番目の、家庭・地域との連携・協働の推進については、後段になりますけれども、コミュニティ・スクールの導入など、学校と地域の連携・協働の推進をさせていただきたいと思っているところであります。</p> <p>それから学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現でございますけれども、主な取組をお話させていただきますけれども、二つ目ですね、校舎の耐震化や老朽化した学校施設の計画的な整備、それからICT化に向けた整備の充実でございます。</p>
-----------	---

<p>市長</p>	<p>それから後ほどテーマとして、掲げさせていただきたいと思っておりますけれども、学校における働き方改革の推進にむけた学校運営の改善。市長部局からも何ができるか、しっかりと考えていきたいなと思っております。</p> <p>次は社会教育になりますけれども、現状と課題についていろいろ書いてございますけれども、一番最後のところでございます。強調したいところですが、生涯学習プラザや図書館、総合博物館などの社会教育施設は、地域の学びの拠点施設として、利活用促進、それから各世代にわたる様々な学習課題に対する事業の積極的な実施や情報発信を行う必要がある。これを課題で掲げさせていただきます。</p> <p>社会教育について、施策がいろいろ書かれておりますけれども、とりわけ3番目の図書館の利活用の促進というところを御覧いただきたいと思っておりますけれども、学校ブックフェスティバルの開催など、学校図書館などとの連携による、子供が自ら読書に親しめる環境の整備、これはやはり本市の場合、ブックスタートから始まって音読であったり、一貫した読書に関わる政策を進めておりますので、これも図書館などを活用しながら、環境整備をさせていただきながら推進をしていきたい、そういう思いで掲げさせていただいたということでございます。</p> <p>次のページの文化芸術でございます。これの現状と課題について少し触れさせていただきますと、中段になります。市民の文化芸術に触れる機会の増加を図り、文化芸術活動の一層の活性化に努める必要がある。それと、公共施設の老朽化や耐震化が課題となっております。これも後ほど触れさせていただきたいと思っております。</p> <p>それから文化遺産や史跡を有します。というところで、小樽の独自の文化が感じられる魅力あるまちづくりを進める必要があるということを課題として掲げさせていただきます。</p> <p>あと、他方で、人口減少や少子高齢化等の影響により、様々な文化芸術活動において担い手の高齢化が進むとともに、後継者不足や活動の縮小が大きな課題となっております。これは、私も文化活動に関わっていく中で、実感しておりますので、これは本当に課題だなと思っておりますのでございますし、また先ほどお話をさせていただいた、ふるさと教育を通じて伝統芸能や無形文化財に触れる機会を創出していく、ということを課題として掲げさせていただいたところでございます。</p> <p>施策の内容につきましては、1ページおめくり頂いて、文化財などの保存と活用と書かれております。実は私が市長として、1年と2か月過ぎましたけれども、1年終わって一期目にどのような取組をするか、幾つか掲げさせていただいた中で、文化財っていいですか、歴史文化を生かしたまちづくりっていうのを進めていきたい。そういうことで、お話をさせていただいておりますけれども</p>
-----------	---

<p>市長</p>	<p>ども、まさに基本となるのは、文化財の保存・活用について市民の皆さんの御意見も、お伺いしながら、しっかりとこれについては対応していきたいというふうに思っているところでございます。</p> <p>それから、無形文化財の保存・伝承、こういったものを児童生徒さんたちにしっかりと学んでいただいて、継承していくということが我々の責任ではないかなと思っております、こういった施策もしっかりと前に進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>それからスポーツとレクリエーションにつきましては、中段にあります近年はというところを御覧いただきたいと思っておりますけれども、やはり一つは、健康寿命の延伸、これが今注目されるようになっていて、これは私も大事にしております。何とか、市民お一人お一人の健康寿命を延ばしていくことはできないかと考えておまして、医療・福祉の観点からは予防行政というふうには言っておりますけれども、やはりスポーツも健康寿命を延ばしていくための大事な要素であるというふうに思っておりますので、これは施策の中でも掲げておりますけれども、課題としてしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、そのためには中段にございます、市民の皆さんがスポーツに親しむことのできる環境づくり、こういったことをしっかりと進める必要があるのではないかなと思っております。また、市長になりましたから、昨日も空手のお子さんたちが全国大会に行くということで挨拶に来てくれましたけれども、多いなと実感しております。市長になっていろいろなスポーツ、文化もありますけれども、いろいろな種目でお子さんたちが、頑張って全国大会に市長行ってきますよというふうに挨拶にお見えになってます。こういった子供たちのスポーツの振興、さらには競技水準の向上も必要なのではないかなと思っております。</p> <p>最後は、特に利用者が多く耐震化の必要性が喫緊の課題となっている総合体育館や、市民の関心が高い、市民プールの整備を検討する必要があります、ということ課題として掲げさせていただいております。</p> <p>施策の内容については、記載のとおりでありますけれども、体育施設の整備と利用促進のところですが、今の公共施設との再編との関係がございますので、市民の健康増進と子供たちのスポーツ振興に寄与する総合体育館と市民プールの整備はしっかりと検討していきたいと思っております。</p> <p>以上概括的に申し上げましたけれども、これが今回策定いたしました第7次総合計画の基本計画におけます、教育大綱に該当する部分ということで御説明をさせていただきましたけれども、私どもとしては、この部分をもって大綱としたい旨御提案させていただきますので、御意見、御質問があればお伺いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p>
-----------	---

<p>市長</p>	<p>それでは小樽市教育大綱につきましては第7次小樽市総合計画の基本計画におけるこの部分を充てさせていただくということで決めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは、協議事項が終わりましたので、意見交換をさせていただければと思います。</p> <p>最初は公共施設の再編計画についてお話をさせていただきたいと思っております。この公共施設の再編計画につきましては、今、小樽市が保有している公共施設を今後40年間維持しようとするすると、年平均で60億円更新費用がかかっていくということが、公共施設の再編素案の中に書かれているわけであります。</p> <p>人口がどんどん減少していく中で、将来の次の世代に過度の負担にならないように今からしっかりと、この公共施設の再編について考えていかなければいけないということで、議会にもお示しをし、10月に1か月かけて市民の皆さんにも御意見を伺ってきたわけであります。</p> <p>3つの案をお示しさせていただいておりますけれども、新聞にもありますように大変多くの意見を市民の皆さんからいただいております。私としても一つの箱物になんでも詰め込むという考えはございませんので、面積を縮減するということが在りきではなくて、再編をすることによって行政課題も解決していかなければいけませんし、あるいは議会でも御指摘がありましたけれども、再編することによって、夢のあるといいますか、ワクワクするようなものもなければいけないだろう、そういった御指摘をいただいております。まさにそのとおりだと思っております。しっかりと御意見を伺いながら、この再編を進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>今日記者会見もあって触れさせていただきましたけれども、本来ですと12月には三つの案を一つに絞って議会にお示しするということがでしたが、これから市民の皆さんから、どういう意見が出て、どういう形で整理するかということ議論していかなければいけないのですが、場合によっては少し延期をさせていただく、そういった形で拙速にならないような内容を考えていきたいと思っております。</p> <p>一つは商業高校が来年3月に廃校になります。御存知のように桜町にあります海上技術学校を、北海道で唯一の船員養成施設でありますので、当時財務省が、平成29年だったと思いますが、廃止の方針を示して、その中で何とか海上技術学校を残したいということで、商業高校を道教委にお願いをして、譲渡していただく、そこに海上技術学校が入っていくということで、今お話を進めさせていただいて、まもなく道と道教委のほうから譲渡金額がお示しされるということになります。</p> <p>幾つかのプランの中で、商業高校の中に、海上技術学校が入っても、3分の1ほどの面積ですので、3分の2が空くのですが、その中に、一つの案とし</p>
-----------	---

<p>市長</p>	<p>て、教育委員会を今の旧東山中学校から、そこに配置をしたいと考えているところでございます。その他のプランで生涯学習的なものも、そこに入れていくという案もあるのですが、それはこれから整理をさせていただきたいと思っております。まずは、教育委員会は商業高校に移転をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。</p> <p>それと、教育委員会の皆様からも既に御意見をいただいておりますが、生涯学習的な機能は、できるだけ集約をした方がいいのではないかと御意見をいただいております。これにつきましても十分参考にさせていただきたいと思っておりますけれども、さきほど公共施設の再編に当たって、行政課題を解決するものでなければならないと思っておりますのは、一つにはワンストップ化といいますか、いろいろな機能が集まることによって、市民の皆さんの利便性も図られていくだろうということもありますので、生涯学習的な機能というのは一つに集約していくのが望ましいのではないかなと思っております。</p> <p>それから、総合体育館についても、耐震化強度も不足しておりますので、これについても再編素案の中に、お示しをさせていただいておりますし、あとは生涯学習プラザの問題です。これを意識したのは稲穂小学校の放課後児童クラブが女性センターにありますので、これもしばしば議会の中で御議論いただいていて、どのように解消するのかということで、なかなか解決策がない中で、このことも一つ念頭に置きながら、教育に関わる施設の再編というのは考えていかなければならないだろうなど思っているところでございます。</p> <p>そういった意味で、文書では教育委員の皆様から財政部長宛にいただきましたけれども、改めて御意見があれば参考にさせていただきたいと思っておりますので、御意見をお伺いさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>笹谷委員</p>	<p>今ほど、生涯学習の機能を集約して、市民の皆様の使いやすいようにワンストップ化ということを伺って、本当にその通りと思いますけれども、そのような中で、生涯学習ですので、市民の皆さんが使いやすいということを考えれば、産業会館ですと、市の中心部にありますので、そういった場所を使うということは考えていらっしゃるのかなということをお伺いしたいのが一つと、ワンストップといえば子育て支援の部分、こちらも子供が生まれた頃、保健所に行ったり、福祉に行ったり、学校に入ったら教育委員会だったり、これもワンストップ化して集約いただけたらなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>産業会館はですね、今回のプランの中には入っていないんですね。それで産業会館は1階と2階部分だけですよね。3階、4階はNTTが持っていますので、今回の公共施設の再編素案の中に、民間施設を使うという考え方は、た</p>

市 長	<p>ぶん入っていない。プールが民間の施設を使ったらということしかないので、そういった部分で、1階、2階部分しかないので、産業会館をとすることは素案の中には明記しておりません。ただ、私の公約なんですけれども、その中に未来を創るという項目があって、その中に、福祉センター、女性センター、生涯学習プラザ、さらには自立した高齢者の活動拠点など、生きがいつくりや生涯学習の機能を集約するよう、再編整備を進めます、これは、出てはいないですが、産業会館をイメージしているんです。だから産業会館を使うということは私の頭の中にあるんですけれども、ただ、民間の施設があるので、それは今の三案の中にはありませんけれども、第四、第五の案として考えていかなければと思っているんです。というのは、あれほど商業ポテンシャルの高い場所にあって、あれはないでしょって言う感じなんです。あそこに何らかの施設をもっていくということは、一方では、経済政策でいうと商店街の回遊というか誘客に繋がっていきますので、あの産業会館を有効利用するということは私も考えています。ただ、それなりの改修も必要です。エレベーターもありませんし。それから3階、4階部分はN T Tさんが所有されていますので、それを借りるのか、あるいは譲渡いただくのかということの議論はまだ足りませんけれども、可能であれば産業会館を何らかの形で有効活用していくという視点は大事じゃないかなと思っています。</p> <p>それから子育てのワンストップ化については、今、機構改革を考えておりまして、社会情勢も変わってきておりますし、ワンストップ化をやるときに、いわゆる子育て関係の職場を一つ作ろうかというプランを持っていますので、それとの関係の中で、できるだけ子育てに限らず、ワンストップを意識して組織作りをして、市民の皆さんの利便性を向上していくというのも大事なテーマであると考えております。笹谷委員からは子育て支援に特化したお話ですけれども、基本的にはワンストップを意識しながら、組織再編なり、機構改革なりやっていきたいなと思っています。</p> <p>ほんと産業会館は上手く使いたいなと。</p>
教 育 長	<p>そうですね。駐車場はないですけれども最高の立地条件ですよ。</p>
市 長	<p>駐車場とバリアフリーにはなっていないですよ。そのところは改修する必要があります。</p>
教 育 長	<p>魅力ですよ。あその場所は。そういう意味でいうと、あそこをセンター化することで、街の中心にありますからね。</p>
市 長	<p>賑わい形成にも繋がりますよね。ここは経済界の皆さんの御意見も必要になってきますけれども、大事に使っていききたいなと思っています。</p>

<p>市長</p>	<p>どうしても今のプランの中で、生涯学習機能を商業高校に入れる案がありますよね。バス停はすぐ目の前にありますけれども、あれですよね。</p> <p>皆さんにそう言われると覚悟はしてましたけれども。そこは十分に考えていかなければと思っております。そうなりますと、第四、第五の案というのを出していかなければいけないと思います。</p> <p>その他、ございますでしょうか。</p>
<p>荒田委員</p>	<p>今の話の続きで公共施設の関係ですけれども、総合体育館を教育委員で見させていただきますと、その感想といいますか申し上げたいと思います。</p> <p>アスベストの工事の経過と外壁の工事を見させていただいて、結論を言いますと、非常に施設の老朽化が進んでいて、小樽のスポーツ施設の拠点としては限界になっているんだなという感想を持ちました。空調がまず十分でないということや、トイレが故障したままになっていることや、職員の方が非常に御苦労されて施設を維持しており、使わなくなった学校のカーテンを再利用したりとか、あるいは雨漏りの対応をしたりということを見てまいりました。</p> <p>あと、アリーナの床も傷みが出ていて、補修をした状態を確認しましたがけれども、これから先のことを考えると、怪我にもつながる可能性があって厳しいなと思って見てまいりました。</p> <p>それから、今年は日本各地で大型の台風の被害がありましたけれども、電気室と非常用電源についても老朽化の説明を受けてまいりました。</p> <p>災害時の被災者の受入れについても災害時に被災者の安全が守られるのかどうかというのが、小樽はこの先、災害がないとは言い切れませんので、早急の対応が必要なんだなという想いを強くして帰ってまいりました。</p> <p>早く決めなくてはいけないということと、じっくり様々な意見を聞いた中で決めていかななくてはいけない部分というのはあろうかと思いますが、早めに対応できること、対応しなくてはいけないこと、それから、議論をじっくりしていくということ、両方あると思いますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。</p>
<p>市長</p>	<p>そうですね、総合体育館は老朽化だけでなく、耐震強度が不足しているということで、今回の公共施設の再編素案の中にもお示しをさせていただいております。それと、議会での御指摘は、防災のお話もありましたけれども、花園公園と一体となった防災の拠点ということも考えていく必要があるのではないかと御指摘も受けておまして、まさにそのとおりとおっております。ですから、これからの再編計画の中で総合体育館の位置付けというのは決めていかなければいけないと思いますけれども、まさに荒田委員のおっしゃるとおりでありまして、様々な課題を解消していかなければいけませんけれども、そのためには、今のプランの中では緑小学校の跡に体育館を持ってくる。今の体育</p>

<p>市長</p>	<p>館の跡に駐車場ですかね。三つの案の一つがそこにプールを併設するというプランもお示しさせていただいておりますけれども。やはり、老朽化そして耐震強度が不足しているということは、市役所の別館、本館、市民会館、体育館、どれもやはり耐震強度が不足して老朽化していますので、なかなかそれを一斉に解決するという財政状況にもありませんけれども、これはこれから庁内の中で、協議して優先順位を決めながら対応していかなければいけないなと思っております。防災拠点にすると有利な補助金や起債が使えるかもしれませんが、その点についても、もうちょっと知恵を出しながら考えていきたいなと思っております。</p> <p>その他、何かございますでしょうか。まだ素案の段階ですので、また逐一皆様方には御報告を差し上げたいと思っております。なければ進めさせていただきます。</p> <p>二つ目の意見交換として、教員の多忙化解消対策についてですが、私に何か案があるわけではないのですが、新聞を見てますと先生たちの長時間労働というのが頻繁に出るようになってきていますので、小樽市の状況がどうなっているのかなというのを確認させていただきたかったのと、そのことも意識しながら、私の公約の中にも、次世代をつくるというところなんですけど、専門的な知識を持った外部人材を積極的に登用するとともに、スクールカウンセラーなどの拡充配置、教育の機器の整備など、教員の働く環境や生徒の学習環境の改善に努めます、とありまして、この公約がまさに先生方の、新聞で目にする長時間労働を解消したいという想いがありましたので、公約の中に掲げさせていただいたんです。</p> <p>実際新年度は、外部人材を登用したのは部活の指導員で、予算は6人分でしょうかね、道の補助金もありまして、つけさせていただきました。従来スクールカウンセラーのほかに部活の指導員にも協力いただくということでつけさせていただきました。まだ部活の指導員を増やしていこうということですから、こういったチャンスがあればなんとか先生方の負担軽減に繋がるということと、なんていいますか、部活の方で言いますと、先生たちも必ずしも専門ではないですよ。なので、そういう意味では、両面で部活も考えていかなければならないと思うんですけども、まず、先生方の多忙化の問題について。</p> <p>事務局から説明いただけるんですよ。一般的に多忙化の話を聞きますので小樽の現状を確認してもらいたいというのが主旨です。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>今お配りいたしました資料に基づいて御説明します。市長が今おっしゃいました外部人材の活用ということについて今年度から6人部活動指導員を配置させていただいております。その中で、現場の先生方の声としましては、休日の中体連などの大会の引率などを部活指導員に任せられるという面で、先生方の負担がかなり減って、教材研究や子供たちへの時間を確保することができた</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>などの声を聞いてございます。市長のお話にもございましたが、経験のない競技を指導するプレッシャーといった部分など様々な負担が解消されるという効果が図られているというところでございます。</p> <p>他には人材活用の他にも部活動の休養日を設定したり、夏休み、冬休みに連続した休みの日を設けるなど、様々な形で教育委員会としては取り組んでいる状況でございます。</p> <p>その他にスクールサポートスタッフ、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、これらは従来から配置していたものですが、専門的な業務に当たるといことで、先生たちの負担を軽減しているという部分もございません。</p> <p>それから、部活動に係る負担軽減といことで、休養日の設定と部活動の時間も長くしないといった制限を設けています。</p> <p>それと、勤務時間を意識した働き方改革の推進といことで、先ほど申しました学校閉庁日の設定や教育委員会による学校サポート体制の充実といことでは、調査物の項目の重複を避けたり、実物投影機などを配置して、従来の模造紙などを使った授業の準備時間を短縮化するなどして負担を軽減するなど取り組んでいるところでございます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>これはアクションプランというのを作ってしまして、その項目に従って、簡単にまとめたのが、その資料です。</p>
<p>市 長</p>	<p>大綱の中にもありますけれども、先生方の児童生徒にしっかり向き合う時間を確保するということを考えると、いまは部活の指導員ですけれども、従来のスクールカウンセラーの増員だとか、そういったことも更に考えていかなければ、ソーシャルワーカーですとか。考えていかなければいけないと思っておりますけれども。委員の皆様、御意見あればお伺いしたいと思っております。</p>
<p>小 澤 委 員</p>	<p>どうしても働き方改革という中で、最初に私ども目に入るのが、例えば休業日を増やすとか、学校外の専門外の力を持っている人を増やすとか、そっちの方に目が行くんですが、そもそも子供が先生と向き合っきちんと学習できるようにすると、そのための教育改革ですからね。で、今言ったようなことを小樽でも取り組んできているんですけども、文科省がそもそもプランを出したときに、じゃあどういう視点でやるかっていうときに、教員の仕事について3つの区分分けをしているんですよ。一つ目が基本的には学校以外で担うべき業務というのをまず一つ挙げています。今までは学校でやってるんですけども、基本的には学校以外でやる業務というのがある。それを全部学校が抱え込んでいたのではないかと、というのが一つありました。例えば小樽で言うと、その中に登下校の子供の対応というのがあるんですよ。小樽ではボランティア</p>

小澤委員	<p>の方が見守りしてくれていますので、そういう意味では、これからそれを発展させていけばいいのかなと思います。私も何人かの人と話したら、あれは学校の先生がやればいいんだよって言うんですね。私は、違います。学校の先生は教室にいて、子供が来たら子供の健康状態を見ながら、おはようと言って一日をスタートするのが教員の仕事で、学校に行くまでの間、あるいは学校を出てからは、地域が見るべきではということ意見を言っているんです。学校の先生が、登下校まで見るのは大変だということで文科省も、学校以外で担うべき業務がありますよと言っています。</p>
市長	<p>それは地域とか家庭でということですね。</p>
小澤委員	<p>そうですね。</p> <p>それから二つ目がですね、学校の業務ではあるけれども、必ずしも教員が担う必要のない業務。これを二つ目に挙げています。例えば、部活動の指導は専門性のある方に協力をお願いしてやったらどうなんだろうと、そういう内容になっています。それで、今年予算付けしてもらって効果があると聞きますけども、今後のことを考えていくと、学校規模が小さくなっていくときに、今の学校単位の部活動というのは、なかなか難しくなっていくのでは。</p>
市長	<p>私もそう思いますよ。</p>
小澤委員	<p>その部活動指導員のこれからの活動というのは、そういう面でも必要になってくるのかなと思います。それが二つ目です。</p> <p>三つ目が、ポイントになるところなんですけれども、教員の業務であり、負担軽減が可能な業務・職務というのを挙げられているんです。教員の業務であるけれども、負担軽減可能なものってどんなものがあるかという、授業の準備。これは、教員の業務だけれどもそれは軽減が可能だと。小樽では先ほどもお話がありましたけれども、大型のテレビを入れてもらったり、実物投影機などありますから、そういうのですごく準備が時間短縮しています。昔、大きな掲示物は、コピーをとって、それを拡大器にかけて、切り貼りするなどしていましたが、今はデータがすぐに読めますから、そういった面の軽減が図られるというのが、これから更に充実を図っていかなくてはいけないのかなと思っています。</p> <p>それから学校行事の準備とか運営というのが挙げられています。これは学校でいろいろ現状を踏まえながら、見直しを進めていますから、これも更に今後進めていくことと思いますし、その他に、支援が必要な児童・生徒。特に今、子供たちの様子が、多様化、複雑化、困難化していますので、先生は、確かに心理学の勉強もするんですけども、ある範囲を超えたときには、やっぱり専門</p>

小澤委員	<p>的なカウンセラーのような資格を持った方が、先生と協働して対応に当たると。そうすることで、いままで一人で全部見てたのが、学校がチームを組んで皆で対応しようということにもなるので、そういう点のことも教員の負担軽減の中に入れていました。</p> <p>それから、次のところが小樽の課題と思うんですが、学習の評価や成績処理。これが教員の本分の仕事の中で、一番時間がかかる。具体的にいきますと、年度末になると成績をつけて通知表を書くとか、それから中学校は毎週時間割を組み替えますので、それを行うとか。年度の終わりには、必ず指導要領をつけて、それを次の学年に引き継がなくてははいけない。そのような業務が作業量としては非常に多いんですよ。そこのところをどうするのかっていうのは、あまり手をつけられていない課題だと思うんですよ。</p> <p>その改善策として、先ほどの資料の一番下に、校務支援システムの導入の検討と書かれていると思いますが、これはいわゆるICTを使って、そういう仕事をシステム化するというものなんですけれども、これによって道のモデル事業の結果、担任平均で、年間116.9時間の削減効果が示されていますので、100時間を越える効果というのは大きいのかなと思います。</p>
市長	<p>そうですね。</p>
小澤委員	<p>ですから、そういったことも重点的に取り組んでいくことで、先生方が授業に集中し、子供の見取りをきちんとして、こういうところに力を入れていったらいいね、ということになるのではないかなと思います。それがこの働き方改革の中で、進めていくことがこれから教育委員会の校務支援システムの導入も含めて、どんな施策をとっていったらいいのかというのが課題だと思っていますのでお話をさせていただきました。</p>
市長	<p>たしかに委員のおっしゃるとおり、御指摘された三点について、なるほどと思います。このあと、いつだったか記憶にありませんけれども、少年スポーツの皆さんと意見交換する場があるんですが、部活というのはこれから考えていかななくてはならないなと思いますよね。やっぱり欧米みたくクラブスポーツになっていくのか。前の総合計画か、その前の総合計画か、総合スポーツクラブみたいな記載もあって、この中にはないですけどもね。スポーツはやっぱりそういうことも考えていかななくてははいけないだろうなと思いますし、まあ、少し個人的な話になりますが、娘も教員ですけども、本当にこの成績の処理、評価っていうのは相当時間かけてましたね。こういうところが軽減できるシステムってあれば。あるんですか？</p>
教育長	<p>システム自体がね、統一化図って全部同じ視点で評価ができるっていうシス</p>

教 育 長	テムですけれども。
市 長	現実にあるんですか？
教 育 長	入ってる市町村は結構ありますので。ただ維持費がとても掛かるんですけれども。それをなんとか入れることによって、大きな街でも、当然札幌は既に入ってますし、入っている市町村も結構多いんです。そういう意味で、小樽の場合も現場からは入れていただきたいという要望も沢山いただいていますし、なんとかしたいなという気持ちはあるんですけれども。ただ、いかんせん1, 200万くらいのお金が、全校入れるとなるとかかると思います。
市 長	120時間というのは大きいですよ。
教 育 長	そうですね。だから効果があるので国だとか、国は情報化の推進計画の中に入れてますし、なんとか入れてほしいという要望もありますので。
市 長	これ補助制度みたいなものはあるんですか。
教育総務課長	交付税措置の対象にはなりません。
教育部次長	ハードを整備するのに交付税措置にはなりますが、1, 200万というのは毎年、毎年のランニングコストです。
副 市 長	1, 200万のほかにハード整備にお金がかかるということですね。
教育部次長	はい。
教 育 長	ハード整備はそれほどかからないんですけれども。ソフトを運営していかなければならないので。つまりどういうことかという、例えば学習指導要領が変わったら、中身をそれに合わせて、全部変えていかなくてはならないんですよ。それは開発会社が変わってくれるというものですから、その経費はかかっていないですよ。道でいえば、高校のシステムは開発経費を別に掛けているんですよ。それを直しながらやっているので、かなりそういう負担は掛かっているという状況はあるんですけれども。今、この校務支援システムというのは効果があるということで入れる市町村が多くなっている状況ですね。
市 長	あの、「あゆみ」の最後も手書きで書かなくていいんですか。

教 育 長	そうですね。全部その学校に合わせて出てきますね。
市 長	<p>ちょっと研究させていただきたいと思います。</p> <p>あとはスクールカウンセラーの増員ということも考えなくてはいけないんでしょうね。不登校の問題とかまだまだありますのでね。</p> <p>現認という言葉が、教育に行ったときに分からなくて、中島室長に聞いたことがあるんですが、やっぱり先生方は家庭に行くわけですよ。生徒さんの状況をね。大変だなと思って。現認という言葉がわからなかったものですから。</p>
教 育 長	今は児童相談所だとかね。福祉部局だとか、手分けしながら子供たちが、生活しているかどうか。
市 長	行っても会えないって聞きますよね。
教 育 長	引きこもっているので、会えないので。そういうのに今はソーシャルワーカーを配置して行っていただく。
市 長	そうですね。そういうところは専門性が求められますからね。
教 育 長	そこが今厳しい状況になっているので。強化していく必要があるんですよ。そこが将来の引きこもりの予備軍になるので、そういう意味で今の段階から、少しでも立ち立ちできるような、自立できるような形にしていく必要があるのです。
市 長	そのところはしっかり対応していかないといけないですよ。
常 見 委 員	昔のイメージですと、先生が家庭に行って、しかも時間外にですよ。そういうように対応しているということが、まさに負担の増大につながるということで、たとえば不登校に関しても小樽に限らず全国的に、人数が増えて、増加傾向にあるといった中で、ますます人手が必要になってくる。しかもその内容に関しては、不安であったり、原因がはっきりしないものであったり、漠然としたものが結構多いんですが、実はその背景にかかわるところでは、体調の不良ということが結構かかわっているみたいなんです。そうしてみると先ほどの話でもあった、生活習慣の問題なんかも出てくるとは思いますけれども、やはりそこに疾患的な背景もあったりすることも、もちろんあって、それによって体調が悪くて行きたくても行けない子供も出てくる。こういったことを引き出すにはやはり専門的なカウンセリングが大事なんだろうと思いますし、そういう意味ではカウンセラーもそうですし、ソーシャルワーカーに関しても関わって

<p>常 見 委 員</p>	<p>いただくっていうことも大事ですし、ケアという面で考えれば、他職種による視点を変えた見方っていうのは、とても大事になってくると思いますので、先生だけでなく、そういった方々の、例えばリアルタイムで情報を共有しないと、対応が後手に回ってきますから、福祉部もそうですし、例えば保健所にしても、情報を共有することは大事ですが、やはりリアルタイムで併せて一緒に連携できるようなことが大切になってくると思いますので、是非それを進めていただくことが、結果的にそれが先生方の負担の軽減になってくるのではないかなと思います。</p>
<p>市 長</p>	<p>やっぱり専門性がどうしても求められますから、先生方はその教務の傍らっていうのは現実的には難しいなとは思ってますし。</p> <p>冒頭申し上げました、令和3年度にむけて機構改革をしていく中で、議会でも御議論いただいておりますけれども、引きこもりへの対応などを十分意識した、機構再編をしていかななくてはならないと思っておりますけれども、そういった中で、総合的に考えさせていただきたいと思っております。これはまた予算の中で教育と調整させていただきたいと思っております。</p> <p>最後私から一点ですけれども、ふるさと教育というのがあるんですが、先日、日本遺産の北前船の関係でフォーラムがございましたけれども、潮見台中学校のみなさん、大変立派に発表していただきまして、懇親会でもその話題でもちきりでした。本当に研究発表の視点もよかったということで、もちろん関係者の皆さんのアドバイスもあったと思いますけど、大変立派だったということで、皆さん口々におっしゃってました。ただその北前船のフォーラムの中でも、申し上げたんですけれども、日本遺産として文化財を保存活用していくという視点は大事ですが、例えば北前船が伝えた歴史とか文化とか、私どもとしては次の世代にしっかり伝承していかなければなりませんので、そういった意味でふるさと教育にも、私どもの方としては力を入れていきたいなと思っておりますので、これまた教育委員会の方のお力添えをいただきたいなと思っておりますので、これについてはよろしくお願ひしたいなと思っております。</p> <p>時間の関係もございますので、ここからは皆様からの御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。</p> <p>学校図書館について御意見があると伺っております。</p>
<p>笹 谷 委 員</p>	<p>私の方からよろしいでしょうか。学校図書館についてですが、文科省の方で学校図書標準というのがあり、蔵書の標準というのがあるんですけれども、そちらの方を比べましても、小樽市の蔵書が基準を大きく下回っておりまして、蔵書が少ないし、古い、そちらの整備が本当に迫いついていなくて、今ついている予算の3倍から4倍くらいの交付税措置がされているということなので、もうちょっと整備をなんとかしていただきたいなというのと、今、スクールラ</p>

<p>笹谷委員</p>	<p>イブライリー便というのをさせていただいて、図書館で一括管理して各学校に配本していただいていますけれども、せめてこちらの方も、もっと充実していただくと、少しでも蔵書の不足分を補っていただけるのかな、っていうのがまず一つ。</p> <p>あと新聞の配備というのもあって、新聞も配備している学校もかなり少なく、小学校で1紙で、新聞を取ることでできない学校もありまして、なんとか中学校では多面的に1紙だけではなくて、比べながら見ていただけるように、少なくとも2紙取って欲しいところなんですけれども、こちらの方も進んでいない。</p> <p>後もう一つ、司書が今、6つの地域で6人配置していただいているんですけれども、配置されていない学校と配置している学校では、やはり大きく違っていまして、やはり司書の方がいる学校は、子供たちがその学校図書館に足を運びますし、貸出の冊数もすごく増えますし、入った瞬間から雰囲気は全然違いますので、すごく大きな効果だと思うんです。</p> <p>全ての学校に司書を全てというは大変かと思しますので、まずは6人をグループのリーダーみたいな形で、6つの地域の中で、司書じゃなくてもボランティアなり、補助の方なり、何か違った形でリーダーの方を中心として活動していただけるような、そういった整備の仕方なり、ちょっと考えていきたいなと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>蔵書のことは、いつも議会でも御指摘されては、交付税が何倍もきているというお話はよく御指摘されますけれども、さきほど言いましたように、ずっと一貫して読書に向けた取組をしながら、お膝元の学校で蔵書が少ないっていうのは悲しい話なんですけれども、どちらにしても、これは僕も課題だと思っていますし、司書が配置されていると全然雰囲気が違っているという話も聞いていますので、ちょっと少し時間がかかりますけれども、しっかり対応させていただきたいと思っておりますけれども、蔵書っていっても古かったら古いで、しょうがないですしね。</p>
<p>教育長</p>	<p>百科事典とかだとね。ロシア連邦とか新しくなって、そういうところとか教えていかなくはないとか、そういうのがあったりとか。</p> <p>今新聞を使った教育を推進しようと研究会なども、市内でもいろいろと一生懸命やっている方もいるんですけれども、新聞取っちゃうと本を買えなくなるので、っていうような、実態としてそういう厳しいところがあるので、私どもの方ではずっと要望はされてるけども、なかなか厳しい状況だっていう話はしてるんですけれども。もう少し予算が増えることによって、この間、道新の支社長さんが新聞をとってくれないかみたいな話もしてましたけど、そういうようなところで少し子供たちに。いままではスクールライブラリー便っていうのでまわしながらやって、その財産があるので、それを扱っている状態なんです</p>

教 育 長	けれども、もうちょっと充実させたいなというところがあるんですよね。
市 長	スクールライブラリーだと、貸出率とか件数とか高いんでしょうかね。
教育部次長	貸出件数は多くて、小中学校全校ほとんどが。
市 長	貸出しが伸びてるとか？増えてるとか？
教育部次長	細かい数字は手元にないですが、伸びていることは確かです。調べ学習というのが増えてますので、ニーズは高いと思います。通常の配本以外にもリクエストが来て、届けたりとかもありますので。
市 長	新聞も、自分が教育部長をやっていたときに、職員と話し合ったことがあるんですけども。先生が家から持ってくるみたいな話がありましたけれども。新聞は全学校に1紙くらいは入っていると思ってたんですよ。そうじゃないってそのとき聞いたので。
教 育 長	特に、小さい学校になると、1紙もとれない配分であって、それはあまりにもかわいそうなんだけれども、年間の購読料って今は、計算すると何万になるのかな。
市 長	月だと3,800円ですかね。
教 育 長	いまは、「まなぶん」を配ってもらったり、協力していただいていたたり、何とか代用している状況ですね。で、この間も直に購読についてお願いされたもので。
市 長	全庁的に見て、蔵書の問題もそうなんですけれども、役所全体を見ても、積年の課題っていうか、一向に解決していないことが結構あるんですよね。今、庁内議論もしながら少しずつ、そういう積年の課題みたいのは、少し解決していこうということで、話し合っているんですよね。だから、一つ例示すると体育館周辺の駐車場が足りないっていう話は、毎年のように出てくるけど一向に解決していないから、このあたりで何か解決策考えようかって議論しているんですけど、そういった蔵書の問題もそうですけれども、積年の課題みたいのは少しずつ時間掛けてもいいから、ちょっと解決していこうかというふうにもっていきたいと思ってますので、これについては少しお時間をいただきたいと思っていますけれども、蔵書の問題にしても新聞の問題にしても、学校司書の問題にしても十分認識しておりますので、少しお時間をいただきたいと思っています。

市 長	そのほか通学路の安全対策についてですけれども、雪の関係なんだろうかね。
荒 田 委 員	昨年このタイミングでこの会議でお願いさせていただきましたので、2年前と昨年を思い出してみますと、昨年は早くに対応していただいたということですよ。私が見る限り、通学路の対応は早かったと思います。雪の量もあつたかもしれませんが。引き続きといいますか、今年も気候でどうなるかわからない部分もありますので、柔軟かつスピーディーに除雪は対応していただきたいと思っております。
市 長	これは去年と同じ形でやらせていただきます。まあ去年は雪が少なかったので、あまり参考にはならないんですが、排雪が早くに入っていたことで市民の皆さん、安心されたと思うんですよ。今年は明日から除雪対策本部を立ち上げますので、去年よりさらに半月早めて対応していきますので、できるだけ対応は早めにやりたいと思っております。排雪については昨年と同じようにバス路線とスクールゾーンを中心とした、通学路。これはもう3学期が始まる前にはやっていくような形で考えていますし、特に重点的にやっていきたいのは、交差点周辺です。見通しが悪くなっていますので。一昨年は50か所でしたが、去年は90か所に40か所増やしています。今年はさらに6か所、重点箇所増やしまして、トータルで96か所の交差点は重点的にやっていきたいと思っておりますけれども、いつも申し上げますとおり、学校の統廃合によって通学路が非常に長くなっていますので、その辺十分、子供たちの学校の行き帰りの安全確保については、まあ、除雪だけに限りませんが、特にしっかりやっていきたいと思っておりますので。除排雪の形としては去年と同じスタイルでやらせていただきたいと思っております。まだまだ課題はあるんですけど、改善はしていきます。特に交差点付近の除排雪については重点的にやっていきたいなというふうに思っております。あと、何かございますでしょうか。
小 澤 委 員	学校を教育委員で訪問していく中で、校長先生と学校経営についていろいろお話しする機会があるんですけども、ある中学校に行きましたら、何か課題はありますかというお話の中で、トイレの臭気がひどくて。
市 長	感じますね。
小 澤 委 員	ええ。もう困っていますということだったので、だから今、洋式化も含めて取り組んでいただいていると思うんですが、臭気というのはかなり人に敏感に感じる場所なものですから、教育環境の整備ということで御検討いただければなど。お願いします。

市 長	<p>赤水というのは解消されてるんですか。</p>
教 育 長	<p>されていないですね。大規模改造に合わせてやっていますので、年、1校ずつくらいのペースで対応しているんですけども。その中で改修をしていっているということですね。赤水も大変ですけども、トイレの方はすごく要望が多いので、そこらへんスピード感も必要かなと。同じようなことを学校行かれた時に言われますね。</p>
市 長	<p>本当に、トイレの臭気と赤水については、なかなか解消されていないという感じはするので、そういった積年の課題というのは少しずつやっていかないと、全然前に進みませんので、もちろん優先順位というはあるでしょうけれども、少しメリハリをつけた形で予算執行していかなくは、いけないんだろうなというふうに思っております。今、先生の方からはトイレの臭気の話でしたけれども、私も感じてますし、申しあげました赤水の問題も含めてトータルでいって環境改善ですよ。これ、しっかりやらせていただきたいなというふうに思っていますので、先ほど申しあげたとおり計画的にやらせていただきたいと思っています。</p> <p>あとは、その他でも何かございますでしょうか。</p>
常 見 委 員	<p>公共施設の問題と日本遺産との絡みなんですけれども、端的に申し上げます。総合博物館、かなり老朽化しております、展示物なんかも工夫やらイベントなんかも行っているところなんですけれども、認定された日本遺産も結局は見せるものですから、それらをまとめて情報発信していく場所としての、総合博物館の価値は非常に大きいと思っています。そこで、展示に非常に今、限界が来ているという状況でありまして、たとえばモニターが壊れて映らないとか、動くはずの展示物が動いていないとかいうような問題がかなり出てきています。また、場所によっては、囲ってあって入れないとか。せっかくの車両の展示も見せなきゃいけないものもありますので、そういったものを有効に使っていくということも、もちろんそうなんですけれども、子供たちがそこに来てもらうことによって、後世に繋がっていくような施設にしていくということは、子供たちの郷土愛にも繋がっていくと思うんです。そういった意味では博物館の充実っていうのも実は大事だと思ってるんですけども、そこをなんとかしていきたいなというふうに思っておりますので。</p>
市 長	<p>そうですね。鉄道車両見てていつも胸痛みますもん。安平や室蘭は手入れして保存するって話題になってますよね。やっぱりその、野ざらしだからどうしてもああいうふうになるんだろうけども、あの車両の中で、ほんとに1台だ</p>

市 長	<p>け手宮線で走った車両があるんですね。教育長には言っていないんですけれども、館長あたりには、全部保存するのは難しいから1台だけでも、きちっと保存したらという話は、この前したんですけれども。ボランティアの方が手入れしても、あれを全部きちっと保存していくというのは難しいし。</p>
教 育 長	<p>今年から1両、プロの人に塗ってもらうというのはやっていますけれども、塗った上に、また塗ってということになるのでガビガビになってしまって。一回カットしてプロの人に塗ってもらうのを予算つけてもらったので、だから、追いつかないんですけれども、少しずつでもできるようにするということが必要かなっていうのと、博物館のモニターとかって、今デジタルの時代ですけれども、開設当初のままなので、もう部品がないものだから、子供たちかわいそうだなっていうのがあって。</p>
市 長	<p>それって予算のどこかで上がっているんでしょうかね。</p>
教 育 長	<p>お金がかかるものだから、その前に雨漏りを先に直すとかいうのが先になっているので、なかなかそこまでいかないのと、あと展示ですから一遍にではなくて計画的にやっていく必要があるだろうということで、博物館の方にはちゃんと計画的に予算配分できるように計画作ってくれっていう話はしてるんですけれども。そうでもしていかないと直っていかないので。</p>
市 長	<p>常見先生おっしゃるとおり博物館もそうだし、図書館もそうだけど、情報発信するっていう場所は、子供たちにとって大事な場所だと思います。ちょっとモニターの話とかは初めて聞きましたけれども、館長とも相談させていただいて順次改善するように考えていきたいと思います。</p> <p>その他何かございませんでしょうか。いかがでしょうか。全体として教育長に御意見をお伺いしたいと思います。</p>
教 育 長	<p>今日市長のほうから、教育大綱についてございました。今日皆さんお話しした内容っていうのは、これに盛り込まれている内容をお話しさせていただいたところでございます。特にその総合計画の基本計画をどうやって教育委員会としても頑張ってやっていくのかっていったときに、我々もまだまだ努力不足のところがあるし、もうちょっと工夫しながらやっていかななくてはならないというのもたくさんあるっていうのも事実です。まあ、そういう意味で頑張っていかななくてはならないんですけれども、特に遅れている部分だとかは市長のお力も借りて、いろいろと取り組んでいく必要があるのもあるし、教育委員の皆さん方も、そういう思いを、我々と常に議論をさせていただいて、中の一部ですけれどもね、是非できるものがあれば御支援をいただきたいなと思っておりま</p>

教 育 長	<p>す。特に基本計画にもありますように人口減少対策の中には、教育の部分も踏み込んで入っています。そういう意味で、子供たちに投資をしていかないと、今後の小樽にとっても大切なことだと思いますので、今後も御支援をお願いしたいなと思います。</p>
市 長	<p>人口対策上、教育環境の整備は大事な柱になってまいりますので、その辺しっかり頭に入れながら、今日頂いた御意見も参考にさせていただきながら、それぞれの職場でも予算編成にかかりますけれども、私も予算議論に望んでまいりたいと考えております。今日は時間になりましたので終わりにさせていただきたいと思いますが、貴重な御意見ありがとうございました。今後、林教育長の方とも、市長部局とも連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。よろしくお願ひしたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。</p>
総 務 部 長	<p>それではこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。</p>